

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらり鎌ヶ谷市民会館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくれます	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	斉藤 実			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	実際にお客様がいる状態での避難訓練をコンサート形式で行い、ショッピングプラザ鎌ヶ谷や各センターと共に有事での対応に備える。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	避難訓練コンサートを継続して行うとともに、市民会館来場者の利便性を図るため、ロビーでWi-Fiが利用できるよう整備する。
②①に基づく取組み結果	6月に避難訓練コンサートを実施し、ショッピングプラザ鎌ヶ谷及び各センターと連携を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センター	意図(対象をどうするのか)	各施設が円滑に運営されている。
②事務事業の概要	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	各施設の来場者数が概ね増加している。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	来場者数は概ね増加傾向である。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	きらりホール	57,047	57,402	58,349	人	業務取得
	ii	中央公民館	98,295	101,735	103,462	人	業務取得
	iii	多文化共生推進センター	2,827	2,383	2,494	人	業務取得
	iv	男女共同参画推進センター・市民活動推進センター	5,010	5,977	5,356	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳			令和元年度予算	
事業費(千円)	114,081	115,509	金額(千円)	内容		116,205	
国支出金(千円)			11,166	光熱水費			
県支出金(千円)			12,769	清掃委託			
市債その他(千円)			80,987	市民会館賃借料			
一般財源(千円)	114,081	115,509				116,205	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	来場者の安全を図るため、緊急時での市民会館内及びショッピングプラザ鎌ヶ谷との連絡体制のさらなる強化					
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	来場者の安全を図るため、緊急時での市民会館内及びショッピングプラザ鎌ヶ谷との連絡体制をより強化する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越	
		H29⇒30繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらりホールの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくれます	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	斉藤実			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	ポスター掲示場所やチラシ頒布場所の拡大など周知方法を改善し、来場者の増加を図る。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	きらりホール主催事業の内容、実施時期、PR方法等を見直すとともに、事業の目的を、より効果的・効率的に達成するため、令和2年度からの指定管理者制度導入に向けて、指定管理者を募集・選定する。
②①に基づく取組み結果	ポスター掲示場所やチラシ頒布場所を拡大し、市民創作ミュージカルの参加者増加などが見られたが、全体的な主催事業来場者数は減少した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民(施設利用者)	意図(対象をどうするのか)	市民の文化活動をサポートする。
②事務事業の概要	きらりホールの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	きらりホールは、有料事業も行える本格的なホールであることから、発表の場としての市民のニーズは高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	全体的なきらりホール来場者数は増加している。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	ホール来場者数	57,047	57,402	58,349	人	業務取得
	ii	主催事業来場者数	5,854	5,130	4,545	人	業務取得
	iii	貸館件数	169	174	189	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	46,846	44,050	金額(千円)	内容	47,887		
国支出金(千円)			5,611	報償費			
県支出金(千円)			180	手数料			
市債その他(千円)	16,548	14,642	28,366	舞台保守管理委託	19,605		
一般財源(千円)	30,298	29,408			28,282		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	きらりホール主催事業での来場者が減少している。					
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	3高い	v 総合評価	5改善
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	きらりホール主催事業の内容、実施時期、PR方法等見直していく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29→30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	令和元年度への繰越額(単位:千円)				